

作(京大文學部長) 落合太郎(東京農專校長) 高橋隆道(東京美術學校校長) 上野直昭(東京第一師範學校校長) 木下一雄(東京體專校長) 大谷武一(教育研修所長) 城戸幡太郎(衆議院議員) 吉田均(貴族院議員) 竹下豐次(衆議院議員) 森戸辰男(東京女高師教授) 倉橋惣三(明治學院長) 矢野貫城(東大名譽教授) 佐野利器(東京聾啞學校長) 川本宇之介、安倍能成、安藤正次、羽溪了諦、渡邊鏡藏、(都立一中校長) 菊池龍道、大島正徳(大日本育英會會長) 田邊道治(國民校長) 名倉愛吉(青年校長) 有賀三一(國民校長) 山極武利(青年校長) 牛山榮治、關口泰(津田塾校長) 星野あい(惠泉女專校長) 河井道、田川房太郎(慶大總長代理) 高橋誠一郎(早大總長) 島田孝一——(朝日新聞)

日本保育研究會の活動

日本保育研究會は昭和十八年八月發會して、種々の研究活動を行つて來たが終戦日の最初の幹事會を開いたのは昭和二十一年二月。其の後、度々幹事會を開き、會の性格、方向、方針等を検討し、民主主義の線に添つて、保育關係者の自主的な研究活動を育て進める様話し合ひ、三月から新發足の仕事を始めた。

三月「幼児教育に關する各政黨の政見を聴く會」

之は民主政治への選挙の折から、幼児教育の重要性を一般に知らすと共に、政治的に問題を取上げてもらふ様にと、計劃したのであるが、惜しくも種々の事情で中止となつた。

四月「保育巡回懇談會」

民主主義保育への保姆の現在の認識や態度及保育方法、研究會に

對する希望等を話し合ひ併せて研究會の行き方を知らたい爲、都内十二ヶ所の保育施設に會場を願つて、其處に近い保育施設四、五ヶ所が集り、本會より幹事二名宛順に出席して、保姆さん達、經營者共々懇談。

五月「歌の撰び方と、新しいリズム運動」

前回の巡回懇談會中保姆さん達の技術方面の希望に添ふ最初の仕事として之を取り上げ、酒田富治先生、戸倉ハル先生のお二人に頼ひして、土曜日午後、二回の講習會を催した、之迄の「教へて頂いて、子供にそのまゝ傳へる」の態度から、保姆が「自分で創作し勉強する」態度に進みたい、最初の試み。第一回目はお講義をきき、第二回目は、作詞、作曲をして來て、その中から比較的良好のものを撰んで頂き、それに振付して、御注意と御批評を頂いた。

六月「これからの幼児教育」

神田教育會館で、倉橋惣三先生、羽仁說子先生のお二人に御講演願つた。

七月 研究協議會「民主主義と幼児教育」

司會者

愛育研究所 森脇 要先生
教育研修所 三木安正先生

演題並に講演者

民主主義に於ける教育の理想 城戸幡太郎先生
日本保育の過去及將來 倉橋 惣三先生
基督教精神と幼児教育 高崎 能樹先生
佛教精神と幼児教育 安藤 正純先生

婦人解放と保育問題

保母の問題と敬愛

新妻いと子先生
山室 民子先生

右の様な内容で午前中は講演、午後は自由討議を行つたが「佛教精神と幼児教育」については講師の都合により講演はなかつた。

この協議会の質疑応答中、保育の諸問題について婦人議員に知つて頂きたい要望が代議士参會者の兩方から出た。八月七日婦人議員クラブの方々と、本會副島、鹽谷外出席して懇談會が催され、その結果保育諸問題についての建議案提出の運びとなつた。

○大阪府私立幼稚園聯盟講習會

昭和二十一年七月十五日より三日間。午前午後。大阪市、常盤會幼稚園。

新日本建設のための幼児教育

倉橋 惣三君

「平和主義遊戯」實習

戸倉 ハル君

幼児のための玩具手技

及川 ふみ君

第三日に於て、特に園長、主任保母の保育座談會を開き、大阪師範學校女子部附屬國民學校主事松山信氏司會、倉橋講師を圍んで懇談、畫餐を共にして、なごやかな研究が行はれた。

○佛教保育協會講習會

昭和二十一年七月二十七日から四日間

東京都中野區中野高等女學校。

保育の民主化

加藤しづえ君

生活科學と保育

山本すざ子君

幼児の觀察教育

栗山 重信君

神話傳説の取扱ひ方

内山 憲登君

幼児の放逐の取扱ひ

江藤 俊明君

幼児心理學
保育遊戯

三木 安正君
賀來 琢磨君

日本幼稚園協會講習會

日時 九月十一日から四日間(九時—十六時)

會場 東京女子高等師範學校附屬幼稚園

科目と講師

- 1 保育新論 倉橋 惣三
- 2 幼児遊戯(實習) 戸倉 ハル
- 3 玩具手技(實習) 及川 ふみ
- 4 保育問題研究會談 (指導 倉橋 惣三)

「キンダーブック」復刊

暫く休刊中だったフレール館の「キンダーブック」は、新たに復刊、従來にまさる充實を以て、楽しく明るく新しい保育のために、家庭、幼稚園、保育所の各方面に歓迎せられてゐる。幼児繪雜誌の重要性を信ずる本會は大にその發展を祈る。

次々に、新しい幼年繪雜誌が刊行せられる。幼児に繪本の必要はいふまでもないが、今日の荒涼たる環境と乾燥した世情とにあつて、美しさと潤ひとを、幼児達は如何に求めてゐることか。そこに幼児繪本の今日特別に必要な譯がある。たゞ、用紙、印刷、甚だ容易でない中で、それ／＼の繪雜誌が、外からは想像もつかぬ苦心をしてゐる。キンダーブックも其の一つであらう。殊に觀察繪本の銘を守つて、従前通りの特色をもち、幼児の心を樂ますと共に、自然と社會との觀察的興味を正しく指導せんとし、藝術性と科學性と社會性とを完具する幼児文化材として、保育界に期待されてゐる。